



1 明北小職員『明科北認定こども園で保育参観』 8月24日（月）

昨年度に引き続き、明北小職員は、明科北認定こども園（NPO 法人 響育の山里くじら雲）にて保育参観研修を行いました。北こども園は、「特化型」と「普及型」の2つの認定を持つ園であり、今回は、特化型保育（園児7名）を参観させていただきました。

2つの認定区分と自然保育の質を重視する基準設定（北こども園は2つの認定を持つ園）

特化型認定園	普及型認定園
質、量ともに自然保育に重点を置いて取り組んでいる園	他のプログラムと一緒に自然保育にも積極的に取り組んでいる園
＜特化型の主な認定基準＞ ☆一週間で合計 15 時間以上、屋外を中心とした体験活動が行われている。 ☆通算 2 年以上の自然体験活動の指導経験がある常勤保育者が半数以上いる。 ☆安全管理の専門講習を受講した常勤保育者がいる。	＜普及型の主な認定基準＞ ☆一週間で合計 5 時間以上、屋外を中心とした体験活動が行われている。
2つの区分に共通する認定基準（略）	

＜参観1：ミニ田んぼ・畑へ＞



園庭で朝の会を行った後、早速、園の畑に向かいました。立ち寄った園のミニ田んぼでは、稲の穂の様子や、一面に貼られた黄色い糸について、子どもたちのちょっとしたつぶやきから話を膨らめていました。畑でもそうでしたが、「これはなんだろう？」「どうしてだろう？」「〇〇かな？」と、園児は、思い思いに言葉にします。園の先生は、園児が興味関心を持って発した言葉を聞き逃さず、周りの子にも投げかけていました。園では、先生が園児に気づかせる発信を控え、子ども自らの発見や気づきを大切にされています。スタートが、与えられたことと、自ら感じたことでは、その後の子どものこだわりへの思いや追究意欲に大きな違いが出るとのことでした。

畑から園に戻った子どもたちは、一旦教室に入り体を休めました。休み中そのままだった日めくりカレンダーを一人 1 枚ずつ破りながら、その日がどんな日であったか先生が話をしながら振り返りました。歌も歌い、とても穏やかな時間が過ぎていきました。



<参観2：にじみ絵を楽しむ>



休憩後、園庭に出た園児は「にじみ絵」を楽しみました。「にじみ絵」は、水に濡れても破れないワトソン紙を水に浸した後、赤・青・黄色の透明水彩絵の具を自由に使って、色づけをしていくものです。自然に混ざり合う部分もきれいです。園児は、“これを描こう”という、はっきりとした目的は持たず、思うがままに着色していったときの画面を楽しんでいます。ある子は、「点々模様のカメレオンだ」⇒「シマウマに見えた」⇒「花火だね」とつぶやきながら、変わりゆく画面を楽しんでいました。

園児の活動が終わった後、小学校職員も「にじみ絵」を体験させてもらいました。小学校でも楽しめそうな教材であり、用具等も確認していました。園の先生からは「言葉では伝わらない。子どもたちは、体験の中から概念を築いていく。」「子どもたちは感覚をたくさん使う。見て吸収していく。環境が大事。」とのお話がありました。

<園長先生より：北こども園の紹介と懇談>



参観後、北こども園の塚原園長から、写真を交えて、年間の活動を紹介いただきました。園では、季節の移り変わりを大切にした活動をしています。様々な活動の中で、笑顔いっぱいの園児の表情からも、登園することを、毎日楽しみにしている様子が伺えました。



子が伺えました。

子どもたちの安定と、家庭教育を大切に考え、特に、特化型は、やってみたいことに寄せる力量と時間があるよさがあるとのこと。『自然との触れ合いの中から生まれる探究的な学びの原点』が、園の子どもたちの姿の中にたくさんあります。この姿を小学校低学年へとつなげ、活かしていきます。

<小学校職員の感想から>

- ・子どもは好奇心の塊。見つけたがる、知りたがる、考えたがる、表現したがる、そんな子どもたちに応じた先生の声かけが素晴らしかった。受け止めることもそうだが、伝えたいこと・考えてほしいことはしっかりと投げかけている。だから、子どもたちは並んでは言われなくても、先生の後について行動すると感じた。
- ・継続的な活動のよさが伝わった。春に植え、芽が出てお世話してきた野菜や花が実をつけ、大きくなっていく様子を実感できるところが素敵だと思った。また、畑に行くまでの時間もとても大切に、目に映る季節の変化に興味を持ち、子どもたちの気づきからたくさんの質問をしていた。「この葉っぱは何だろう?」「形を見ると桜じゃない?」といったやり取りから、ピンク色をした桜の花をただキレイだと見るだけでなく、花が落ち、新緑に変わった後も関心を持って子どもたちが見ていることが伝わった。
- ・にじみ絵では三原色を扱い、色の変化に手ごたえをもって感じることでできる経験は貴重だと思った。あえて外で活動しているのだと思うが、風や太陽を感じながら絵を描くのが素敵だった。
- ・年少さん・年中さんが、年長さんに憧れ、その年長さんが小学生に憧れる…縦割り活動をするこのよさを改めて感じました。昨年よりもう少し、園児との交流をしたくなった。